

# 2018 年度 2nd クラス競技規定

## 目次

一般.....	1
〈概要〉.....	1
〈参加資格〉.....	1
〈運用限界〉.....	1
〈保護用具の使用〉.....	1
〈使用機材〉.....	1
〈健康管理〉.....	1
〈通信機器〉.....	1
〈航空法〉.....	1
〈雲中飛行〉.....	1
〈衝突回避〉.....	2
〈テイクオフ、ランディングの使用について〉.....	2
〈ペナルティー及び失格〉.....	2
〈タスクキャンセルとタスクストップ〉.....	2
〈帰着申告〉.....	2
〈その他(選手心得、禁止事項など)〉.....	2
年間ポイント.....	3
1.受付.....	3
2.タスク.....	3
3.ペナルティー.....	3
4.競技の中止.....	4
5.競技時間.....	4
6.セットアップ.....	4
7.テイクオフ.....	4
8.タスクボードへの記載事項.....	4
9.リフライト.....	4
10.タスクフィニッシュ.....	4
11.ランディング.....	5
12.デュレーションの場合.....	5
13.ターゲット(高高度)の場合.....	5

## 一般

### 〈概要〉

- ・ 競技規定は、ハンググライディングシリーズを前提として設定されている。参加選手はその双方をよく理解した上で大会に参加すること。ハンググライディング学生選手権のルールとハンググライディングシリーズの間で疑義が生じた場合はハンググライディング学生選手権のルールを優先する。

### 〈参加資格〉

- ・ 参加者は有効なフライヤー会員登録をしている B 級以上所有者。かつ、インストラクターに 1st クラスの競技が安全に行われる技術があると認められた者とする。
- ・ 日本学生フライヤー連盟に加盟していること。
- ・ その他参加資格の詳細は、大会毎に定めるため開催要項に記載。

### 〈運用限界〉

- ・ 選手は自分の使用する機材の特性を十分理解し、なおかつその運用限界内で使用しなければならない。

### 〈保護用具の使用〉

- ・ 参加選手は、(I)適切な防護ヘルメット、(II)大会最終日より遡って 180 日以内にリパックされたレスキューパラシュート、それら 2 点が装備されていなければ、フライトをしてはならない。リパックされた日付は、JHF のリパックタグにより、確認する。
- ・ 大会の最初のフライトの際選手はテイクオフスタッフにレスキューパラシュートの確認を受けなければならない。確認を受けた際、レスキューパラシュートのリパックの有効期間が切れている、または大会期間中にリパックの有効期間が切れる場合はその選手の大会参加を認めない。

### 〈使用機材〉

- ・ 使用する機材の安全性・耐空性は選手自身により管理され、確保されていなければならない。少しでもそれらに問題がある場合はフライトをしてはならない。
- ・ 所持する技能証に応じて、メーカーが推奨するレベルの機体を使用すること。
- ・ 大会主催者は、大会期間中いつでも選手に対して機体の整備状況や安全性について報告を求め、また、機体を検査することが出来る。安全性に問題があると判断された場合は、その問題が解消されるまで、その機体の使用を制限することが出来る。
- ・ 使用機体は、原則として大会期間中変更できない。ただし、破損した場合は適切な処置(パーツ交換・修理)を施した上で破損する以前と同等の耐空性能を得て使用し続けるか機体の変更を申し出ることが出来る。

### 〈健康管理〉

- ・ 選手は心身ともに競技出来る健全な状態でなければ競技してはならない。
- ・ フライトに支障をきたす薬剤や眠気を催す医薬品、アルコールを摂取してのフライトをしてはならない。

### 〈通信機器〉

- ・ 飛行中は電波法で認められた大会公式周波数で送受信出来る無線機を使用すること。

### 〈航空法〉

- ・ 航空法を厳守すること。

### 〈雲中飛行〉

- ・ 雲中飛行は禁止とされ、競技役員、他の選手によって監視される。

- ・ 雲中飛行とは、グライダーの一部又は選手が雲により、第三者からの視界から消えたときのことを言う。
- ・ 多くの選手が雲中飛行をした場合、競技委員長の判断によって競技を中止される場合がある。

#### 〈衝突回避〉

- ・ 旋回方向はエアリアルールに準ずる。エアリアルールは参加選手全員に広報されなければならない。
- ・ サーマルにはすでに旋回中のフライヤーと同方向に旋回するように入ること。

#### 〈テイクオフ、ランディングの使用について〉

- ・ 大会で使用するテイクオフ、ランディングは競技委員長が判断する。

#### 〈ペナルティー及び失格〉

- ・ 日本学生フライヤー連盟のハラスメント規定にもとづいて、ハラスメント行為が行われたと認められる選手はペナルティーを与えられる。
- ・ 大会規則に違反した選手あるいは役員の指示に従わない選手は警告を与えられる。警告を与えられた者は何らかのペナルティーを与えられる。二回警告を受けた選手は大会失格とする。
- ・ 重大な危険行為をした選手及び不正を働いた選手はその時点で大会失格とする。
- ・ 他人に迷惑をかける行為を行った選手は、大会失格とする場合がある。
- ・ 大会失格となった選手のその大会での成績は、0点にする。また、大会失格となった時点で、その後の競技への出場は認められない(大会失格となった大会のみ)。
- ・ 帰着申告のない場合、その選手のその日のスコアを0点にする。
- ・ 雲中飛行を行った選手には、競技委員長の判断により、そのタスクのスコアを30%減点し、警告を与える。

#### 〈タスクキャンセルとタスクストップ〉

- ・ 競技開始後に天候が急変した場合、競技委員長はタスクキャンセルすることが出来る。また、競技の途中でタスクをストップすることが出来る。

#### 〈帰着申告〉

- ・ 大会参加の意思を示した選手は、その日のフライト終了後に本人自ら大会本部に帰着を申告しなければならない。帰着申告のない場合、その選手のその日のスコアを0点にする。

#### 〈その他(選手心得、禁止事項など)〉

- ・ 水以外のいかなる物品も投下してはならない。
- ・ 電線、建造物、人混み等の上空は安全な高度(100m以上を目安とする)を保って飛行すること。
- ・ 競技委員長に安全なフライトは無理と判断された場合、フライトを制限されることがある。
- ・ たとえ競技が開始されても、気象条件が自分の能力の限界を超えている。あるいは超えそうだと判断した場合、テイクオフを断念すること。
- ・ 競技フライト中、たとえ競技が中止されなくても、気象条件が自分の能力の限界を超えている。あるいは超えそうだと判断した場合には速やかに競技を中止し、安全にランディングすること。
- ・ 決定されたタスクの飛行コースが自分の能力では安全にフライト出来ないと判断したら、テイクオフを断念すること。
- ・ 競技フライト中、タスクの飛行コースが自分の能力では安全にフライト出来ないと判断したら、安全なコースに迂回するか速やかに競技を中止し安全にランディングすること。

## 年間ポイント

### ポイント計算

各大会において順位に応じた大会得点を与える。ここで獲得した各大会の大会得点の総計を年間ポイント(最終成績)とし、年間ポイントで年間ランキングを決定する。ただし、年間ポイントが同点となった場合、それぞれの大会での総合得点の高いものを上位とする。

大会得点を以下のように定める。

大会得点の算出方法は以下の通り。

参加人数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位-
4	18	14	10	7	5	4	3	2	1	1	1
5	20	15	11	8	6	4	3	2	2	1	1
6	21	16	12	8	6	4	3	3	2	1	1
7	22	17	12	9	6	4	4	3	2	1	1
8	23	18	13	9	7	5	4	3	2	1	1
9	24	18	14	10	7	5	4	3	2	1	1
10	25	19	14	10	7	5	4	3	2	1	1
11	26	20	14	10	7	5	4	3	2	1	1
12	26	20	15	11	7	5	4	3	2	1	1
13	27	21	15	11	8	5	4	3	2	1	1
14	28	21	15	11	8	6	4	3	2	1	1
15	28	21	16	11	8	6	4	3	2	1	1

下表のように順位に応じて基準点を定める。

また参加人数に応じた人数係数を定める。

$$\text{人数係数} = 0.3 + 0.7 \times \text{LOG}_{10}(\text{参加人数})$$

大会得点は基準点と人数係数を掛け算し小数点第一位を四捨五入した数字とする。

$$\text{大会得点(小数点第一位を四捨五入)} = \text{基準点} \times \text{人数係数}$$

## 1.受付

- ・ 受付は、大会スケジュールの時間に従って、大会本部にて行う。受付時間に遅れたものは、その日のフライトは棄権したものとみなす。

## 2.タスク

- ・ 大会期間中はタスクの変更は出来ない。
- ・ タスクは大会により、次のいずれかから決定する。
  - a) デュレーション  
テイクオフしてからランディングするまでの滞空時間を競う。  
ただし、当日の気象条件等によりデュレーションのタイムに上限を設けることもある。
  - b) ターゲット(高高度)  
ランディングの技術・精度を競う。

## 3.ペナルティ

- ・ 雲中飛行を行った選手には、競技委員長の判断により、そのタスクのスコアを 30%減点し、警告を与える。
- ・ 旋回方向義務違反には、競技委員長の判断により、そのタスクのスコアを逆旋回1回につき 10%減点する。複数回の場合、減点の上限は 40%とする。また、その選手には警告を与える。ただし、同一のサーマルで旋回中のフライヤーと同方向に旋回した場合は違反とはしない。

- ・ 定められた時間までに帰着申告をしなかった選手は、その日のスコアを 0 点にする。

#### 4.競技の中止

- ・ いったん競技が開始されても気象条件の急変等により、その競技を中止する場合がある。その場合フライト中の選手には公式無線により知らせる。フライト中の選手は速やかに安全にランディングすること。

#### 5.競技時間

- ・ 選手はテイクオフ・ウィンドウ・オープンタイム内にテイクオフし、定められた時間までに帰着申告をしなければならない。定められた時間までに帰着申告をしなかった選手は、その日のスコアを 0 点にする。

#### 6.セットアップ

- ・ セットアップは実行委員長に指定された場所で行う。
- ・ 選手ごとにセットアップ場所を決める場合は、Exp、1st、2nd の順に最後に成立したタスクまでの総合順位順に決めること。また、最初のタスクの場合はエントリー順に決めること。
- ・ 天候に応じて 1st や 2nd が先にセットアップ場所を決める場合もある。

#### 7.テイクオフ

- ・ フリーテイクオフ制を用いる。テイクオフ・ウィンドウ・オープンタイム内に選手の好きな時間にテイクオフする。ただし、テイクオフディレクターの指示に従わなければならない。

#### 8.タスクボードへの記載事項

- 一般：日付、大会名
- タスク内容：タスクの種類、テイクオフ・ウィンドウ・オープンタイム、テイクオフ・ウィンドウ・クローズ時刻、タスクフィニッシュ時刻、ランディング報告締切時刻、タスクレポート締切時刻
- 安全に関する情報：大会本部の電話番号、指定地域におけるサーマルの旋回方向、フライト禁止エリア

#### 9.リフライト

- ・ リフライトは何度してもよい。
- ・ リフライトする選手は必ずハーネスとグライダーの片付けを終了させ、リフライト申告をすること。
- ・ 最も得点の高いフライトを採用する。
- ・ ただし大会により、リフライトに制限を設ける場合がある。

#### 10.タスクフィニッシュ

- ・ タスクフィニッシュ時刻は、ブリーフィングの時に発表される。
- ・ タイム計測はこの時間までとする。
- ・ タスクフィニッシュ後は安全を確認し、同時進入にならないよう速やかにランディングしなくてはならない。

## 11.ランディング

- ・ランディング場は地図に示したエリアをいう。指定のランディング場に着地した場合をインサイドランディング、それ以外をアウトランディングという。アウトランディングした場合はエアリアルールに従うこと。アウトランディングは、採点対象外とする。ただし、安全上の理由によりアウトランディングした場合は競技委員長およびセーフティーコミッティーの判断によるものとする。

## 12.デュレーションの場合

### 12-1.タスクの成立、大会の成立

#### (1) タスクの成立

選手全員がテイクオフするだけの時間(参加人数×4分程度)テイクオフ・ウィンドウが開いていた場合。

#### (2) 大会の成立

大会の成立条件は、次の2項目(I、II)が共に達成されたときである。

- I. タスクが少なくとも1本は成立する。
- II. 出場者数が3人以上である。

### 12-2.時間計測

- ・飛行時間はテイクオフからランディングまでを計測し、秒単位とする。
- ・テイクオフ時刻:選手の両足がランチャー台(地面)から離れた時とする。
- ・ランディング時刻:選手が安全にインサイドランディングした時とする。タスクフィニッシュ時刻を過ぎてからランディングした場合は、タスクフィニッシュ時刻をランディング時刻とする。

### 12-3.得点計算

#### a) 飛行時間

飛行時間を $T$ 、補正タイムを $T_s$ とする。

$$T_s = T \times \alpha$$

とする。ただし、 $\alpha$ は**シングル:1.0 ダブル:0.9**

#### b)合計得点

クラスの最高飛行時間を $T_{smax}$ とする。合計得点 $P$ は

$$P = 1000 \times \left( \frac{T_s}{T_{smax}} \right) \times RVF$$

とする。

#### c)RVF

$$RVF = \frac{\text{その日の有効なフライトを行った競技参加者の平均エアタイム(秒)}}{1800(\text{秒})}$$

とする。ただし、最大値を1とする。

## 13.ターゲット(高高度)の場合

### 13-1.タスクの成立、大会の成立

#### (1) タスクの成立

選手全員少なくとも1本フライトできた場合成立とする。

(2) 大会の成立

大会の成立条件は、次の2項目(I、II)が共に達成されたときである。

- I. タスクが少なくとも1本は成立する。
- II. 出場者数が3人以上である。

13-2. 距離計測

- ・ 最初に身体の一部が接地してから安全に停止するまでの全軌跡中最もターゲットから離れた点と、ターゲット間の距離を計測する。
- ・ 計測は1cm単位で行う。
- ・ 計測は最大3000cmまで行い、それよりも離れていた場合は距離得点を0点とする。

13-3 得点計算

a) 距離得点

ターゲットからの距離をDとすると、距離得点 $P_t$ は

$$P_t = 700 \times \left(1 - \frac{D(\text{cm})}{3000(\text{cm})}\right)$$

とする。

b) 合計得点

合計得点Pは

$$P = (P_t + S_b) \times S_c$$

とする。ただし

- ・  $S_b$  (セーフティボーナス): ベースバーも膝もつかず両足で立った場合 300
  - ・ ベースバーが地面についたが両足で立った場合 200
  - ・ その他の場合 0
  - ・  $S_c$  (セーフティ係数): 通常 1
  - ・ ボディラン、ノーズが地面に触れた場合 0.5
  - ・ 身体や機体を損傷した場合 0
- ※ 細かな判断は大会運営側に委ねる